

“仮称：中部圏地域創生ファンド”のイメージ（案）

★中部圏における共創力の向上、市民セクターの活性化

多種多様な寄付

寄付の形態

- ・慈善
- ・遺贈
- ・CSR等

寄付者の意向

- ・防災/減災
- ・自然環境保全
- ・起業支援
- ・コミュニティ活性化

- 多種多様な寄付の受け入れ
(マンション型窓口の用意)
- 寄付者の意向を活かす
(多彩な助成:助成/寄付・奨学金)
- 万博の志の継承
- 中部圏の課題対応
- あらたな機軸
地域創生、人材開発、研究支援

非営利部門への 助成/寄付・奨学金

- ・モリコロ基金の継承
- ・新たな課題への対応
- ・人材力の強化

営利部門への助成

- ・コミュニティビジネス等

出損

行政

- ・愛知県
- ・名古屋市
- ・その他

企業 団体 個人

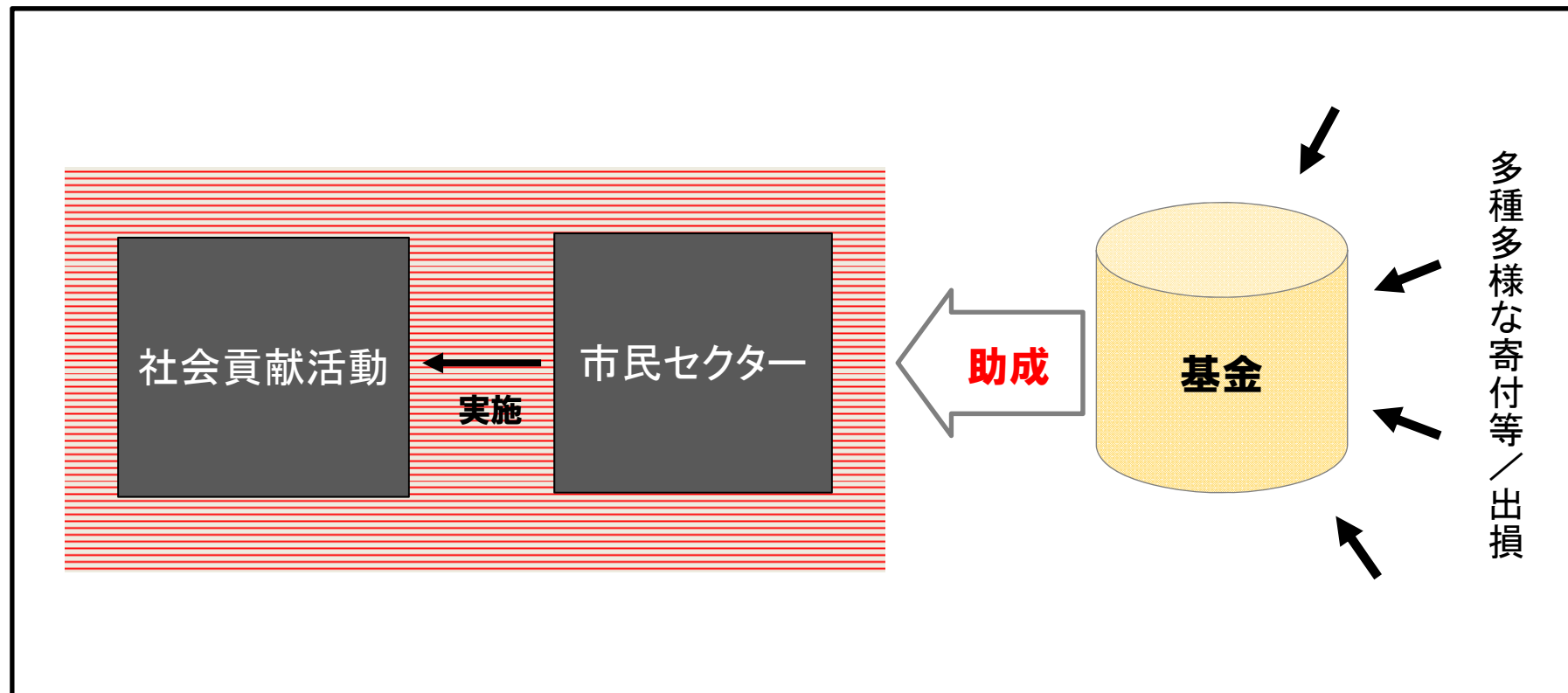
組織の運営資金/運営体制の充実/信頼性の確保

- 出損資金の獲得
- 役員と実務者(企画広報、基金運用等)の確保
- 多種多様な寄付の受け入れ
- 助成審査能力の具備、助成業務の遂行

ファンド活動の基盤づくり

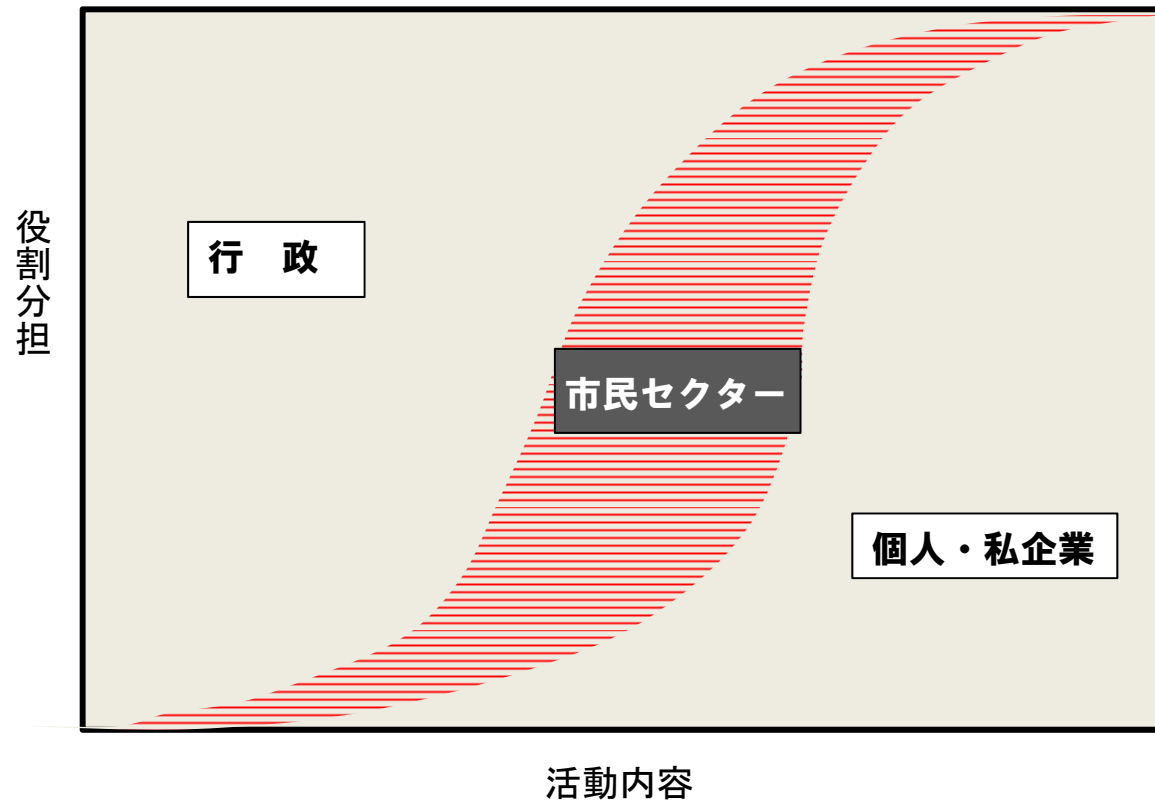
助成の視点

活動助成と団体助成



活動主体と役割分担

社会の安定装置
市民セクターの支援・底上げが重要



ファンドの成長イメージ

10年後を目途にファンドを育てる

年次	事務局体制(人)	目標
1~3年目(創設期)	2	ファンドの知名度の拡大 基金数の拡大 醸成方針の明確化
3~10年目(成長期)	2~4	ファンドの信頼性の確立 助成対象の拡大 自立事業の拡大
10年目以降(安定期)	4~5	ファンドの安定操業 助成成果の評価 新規事業の模索・展開
備考	OB活用の専任体制 産官の支援体制 学識者との連携	